

中国語動詞“掐”[qiā]、“摘”[zhāi]、“採”[cǎi]の意味分析

劉麗

1. はじめに

中国語において、“掐”¹⁾[qiā]、“摘”[zhāi]、“採”[cǎi] この三つの動詞は、「手で対象物をつむ」意味では共通している。

- (1) 掐花。(花をつむ)
- (2) 摘花。(花をつむ)
- (3) 採花。(花をつむ)

しかし、この三つの動詞を自由に置き換えたりできるわけではない。

- (4) 張三用力掐花。(張三は力いっぱい花を摘む)
- (5) 張三用力摘花。(張三は力いっぱい花を摘む)
- (6)× 張三用力採花。(張三は力いっぱい花を摘む)

このように、“掐、摘、採”には用法の差があるのである。本論はこの三つの動詞の意味特徴を究明するため、「動作の手段」、「動作の注目点」、「動作の様態」などの角度から分析を展開してみる。

2. 辞書の記述

辞書では、“掐”[qiā]、“摘”[zhāi]、“採”[cǎi]の三つの動詞について、次のように記述されている。

語 辞 語 釈 書	『漢語常用動 詞搭配詞典』	『動詞用法詞典』	愛知大編『中日辞典』
掐	① pinch; nip, 摘 ② clutch	①用指按；用親指和另一个指頭使勁或切断。 (以下略)	①つねる、爪をたてる。 ②(指先または爪で)つかみとる。
摘	① pick; pluck; take off.	①取(植物的花果葉或戴着、掛着的東西)。 (以下略)	①(手でつまんで)とる。 はずす。もぐ。 (以下略)
採	① pick; pluck, 摘 ② extract; mine = 開採	①摘(花儿、葉子、果子)。 ②開採。 ③搜集。	①とる、摘みとる。 (以下略)

このように、辞書では“掐”[qiā]、“摘”[zhāi]、“採”[cǎi]の三つの動詞を互いに入れ換えたりして、語釈をしている。しかし、この三つの動詞は微妙に意味が違っている。以下は、その意味区別を見てみる。

3. 分 析

3.1. 動作の手段

次はまず“掐、摘、採”三動詞の動作の手段について考察してみる。

(7) 張三掐花。(張三が花をつむ)

(8) 張三摘花。(張三が花をつむ)

(9) 張三採花。(張三が花をつむ)

通常の場合、“掐、摘、採”は人間が手を用いて行う動作である。しかし、次のように人間以外のものが主体にたつ場合もある。

(10) 猴子掐／摘／採花。(猿が花をつむ)

(11) 黑猩猩掐／摘／採花。(チンパンジーが花をつむ)

「猿」、「チンパンジー」などが、「人間の手」に近い形の「手」を用いて物をつむ場合も、“掐、摘、採”で表現できる。

(12)× 狗掐／摘／採花。(犬が花をつむ)

(13)× 猫掐／摘／採花。(猫が花をつむ)

一方、「犬」、「猫」のような動物は“掐、摘、採”と共起しにくい。なお、場合には、「犬、猫の前足」を「手」と見なすこともあるが、犬、猫の「手」の形が人間の手の形と違うことに注意すべきである。詳しいことは次の「動作の様態」のところ述べるが、“掐、摘、採”は、「指の力」を用いる動作で、「犬、猫」のような、「指」と捉える部分がはっきりしない「手」は“掐、摘、採”の三つの動詞と共起しにくい。

(14) 張三用機械手掐花。(張三がマジック・ハンドで花をつむ)

(15) 張三用機械手摘花。(張三がマジック・ハンドで花をつむ)

(16) 張三用機械手採花。(張三がマジック・ハンドで花をつむ)

(17)× 張三用筷子掐花。(張三が箸で花をつむ)

(18)× 張三用筷子摘花。(張三が箸で花をつむ)

(19)× 張三用筷子採花。(張三が箸で花をつむ)

例文(14)~(16)で見たようにマジック・ハンドを人間の手の形にし、人間の手と同じような動作をすれば、“掐、摘、採”のいずれを用いてもさしつかえない。一方、「箸」を用いることは人間の指の延長とは言えるが、力の入れ方が違うので、例文(17)~(19)は

言えなくなる。厳密に言えば、“掐、摘、採”は物を切るように指先に力を入れる動作である。「箸」を使う場合になると、物を移動させるように箸先をはさむ程度の力しか入れない動作となり、“掐、摘、採”のいずれも用いられない。よって、“掐、摘、採”三動詞は人間の手、あるいは人間の手と同様な機能のあるものとはしか共起できない。

3.2. 動作の様態

3.2.1. 力の強さ

“掐、摘、採”は「指を使って対象物をつむ」動作を表すが、動作それぞれに用いる力の強さが違う。

(20)[×] 張三輕々掐下一朵花。(張三はそっと花をつんだ)

(21) 張三輕々摘下一朵花。(張三はそっと花をつんだ)

(22) 張三輕々採下一朵花。(張三はそっと花をつんだ)

このように、「そっと花をつむ」場合は“摘”“採”を用いることはできるが、“掐”を用いることはできない。

(23) 張三用力掐下一朵花。(張三は力いっぱい花をつんだ)

(24)[?] 張三用力摘下一朵花。(張三は力いっぱい花をつんだ)

(25)[×] 張三用力採下一朵花。(張三は力いっぱい花をつんだ)

逆に、「力いっぱい」花をつむ場合になると、“掐”は使えるが、“摘”を使うと、やや不自然になる。そして、こういう場合では、“採”は用いられない。“掐”がある力を伴うという特徴は後の3.2.3.の議論と関連する。

3.2.2. 指の使用状態

“掐、摘、採”は共に「指で対象物をつむ」動作ではあるが、指の使用状態が動詞によって異なってくる。

(26) 用二只手指掐花。(二本の指で花をつむ)

(27) 用五只手指掐花。(五本の指で花をつむ)

(28) 用二只手指採花。(二本の指で花をつむ)

(29) 用五只手指採花。(五本の指で花をつむ)

“摘”、“採”は、「指を五本とも」使うか、あるいは「何本かの指」を使うかには特に制限がないので、例文(26)～(29)のいずれもいえる。

(30) 用二只手指掐花。(二本の指で花をつむ)

(31)× 用五只手指掐花。(五本の指で花をつむ)

“掐”は「二本の指（通常は親指と人差指）」を用いる動作で、例文(31)が不適格となる。

3.2.3.動作の注目点

“掐、摘、採”この三つの動詞を用いた動作は、それぞれ注目するところが違う。

“掐”は「断ち切る」こと、“摘”は「取り外す」こと、“採”は「選び取る」ことに注目する特徴がある。

(32) 掐／摘／採花。(花をつむ)

(33) 掐／摘／採葉子。(はっぱをつむ)

(34) 掐／摘／採豆角。(豌豆をつむ)

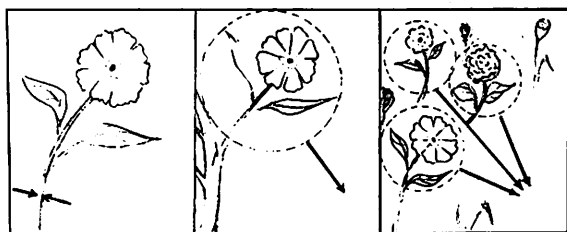
例文(32)～(34)で見ると、“掐、摘、採”の対象物は一見同じように見えるが、実際にはそれぞれの動作の対象物における注目される部位が違う。

(35) 掐花。(花をつむ) =(1)

(36) 摘花。(花をつむ) =(2)

(37) 採花。(花をつむ) =(3)

図<1>



掐

摘

採

例文(35)～(37)の意味合いを図示すると上のように違って来る。“掐”は、「花の茎を断ち切る」ことに注目し、“摘”は「花を本体から取り外す」ことに注目する。そして、“採”は「複数にある花からある特定の花を選んで、それを摘み集める」ことに注目しているのである。以下それぞれの動詞の特徴について詳しく見ていく。

A. “掐” → 「断ち切る」

“掐”は、「植物の茎をきる」意味から、「細長いものをきる」意味で、次のような用法もある。

(38) 把煙頭 { 掐断。(タバコを折って消す)
×摘断。
×採断。

- (39) 把電線 { 掐断。(コードをきる)
 ×摘断。
 ×採断。

ここの“掐”が“摘”、“採”と置き換えできないのは、“摘”、“採”には「細長いものをきる」意味がないからである。3.2.1.で触れたように、“掐”が一定の力を伴わなければならないのは、「対象物を断ち切る」意味合いが強いからである。この意味特徴から次のような派生的な用法もみられる。

- (40) { 掐水。(断水する)
 ×摘
 ×採

- (41) { 掐電。(停电する)
 ×摘
 ×採

- (42) 他叙述一件事、總是 { 掐頭去尾的。(彼の話は、いずれも完全ではない。[「事
 ×摘
 ×採

件の連続性を切って断片しか話さない」ことの例え])

“掐”は「細長いものをきる」意味から派生して、「つながっている」、あるいは「持続する」はずの「水、電気の供給が切断される」意味にも、あるいは「本来連続している事件の内容が途中できり離されたりする」などの意味にも用いられているのである。しかし、“摘”“採”にはこのような用法がない。

B. “摘” → 「取り外す」

- (43) 从果樹上摘葡萄／苹果／花／梨／桃。(果樹から葡萄／リンゴ／花／梨／桃をつみとる)

- (44)[×]从果籃上摘葡萄／苹果／花／梨／桃。(かごから葡萄／リンゴ／花／梨／桃をとる)

“摘”は「本体に固定されている対象を取り外す」意味特徴がある。果実を「果樹という本体からつみとる」意味で、“摘”は用いられるが、「果物のかご」に置かれた「果物」は、すでに、「果樹」から切り離された物で、それをとることを“摘”で表現することはできない。“摘”は「本体に固定されている対象を取り外す」意味から、次のような派生的な用法がみられる。

- (45) { 摘眼鏡／圍巾／髮卡／手套／頭巾。(メガネ／マフラ／ピン／手袋／頭巾をは
× 招
× 採
ずす。)

(45)の“摘”は“招”“採”と置き換えができない。“招”“採”には「本体に固定されているものを取り外す」意味特徴がはっきり読み取れないからである。

C. “採”→「選び取る」

(46) 張三採来一朵野花。(張三は一輪の野花をつんできた)

(47) 張三招来一朵野花。(張三は一輪の野花をつんできた)

(48) 張三摘来一朵野花。(張三は一輪の野花をつんできた)

例文(46)~(48)は同じ事柄の表現となっているが、(46)には「多数の野花の中から一輪をつんできた」ニュアンスがあり、(47)、(48)にはこのようなニュアンスが読み取れない。

(49) 採野花／野菜／野果／。(野花／野草／野生の果物／をつむ)

(50)? 招野花／野菜／野果／。(野花／野草／野生の果物／をつむ)

(51)? 摘野花／野菜／野果／。(野花／野草／野生の果物／をつむ)

(52) 採草葉／磨姑／蓮蓬／蓮花。(葉草／きのこ／蓮のみ／蓮の花／をつむ)

(53)? 招草葉／磨姑／蓮蓬／蓮花。(葉草／きのこ／蓮のみ／蓮の花／をつむ)

(54)? 摘草葉／磨姑／蓮蓬／蓮花。(葉草／きのこ／蓮のみ／蓮の花／をつむ)

“採”には「複数のものの中からある特定のものを選び取る」ニュアンスが強い。通常の場合、「野花」、「葉草」や、野生の「きのこ」などは雑草の中に、「蓮のみ」は、蓮の葉の間に混ざって成長している。雑草と混ざっている「野花」「葉草」や、蓮の葉の間に混ざっている「蓮のみ」を取り出すには、選ばなければならない。よって、(49)、(52)の表現が最も自然である。(50)、(51)、(53)、(54)のように、“採”を“招”“摘”と置き換えると、「多数のものの中からある特定のものを選び取る」意味合いが消えてしまうので、文脈なしでは文のすわりが落ち着かなくなる。

(55) 採一把野花。(一束の野花をつむ)

(56) 採幾朵蓮花。(何輪かの蓮の花をつむ)

(57) 採幾個野果。(何個かの野生の果物をつむ)

このように、“採”は「選び取る」意味合いが強いので、対象物は通常複数の場合が多い。

“採”の「複数のものの中からある特定のものを選び出す」という意味特徴から、植物を対象にする以外に、次のような用例も見られる。

- (58) { 採石油／礦／煤／金子。(石油／鉄鉱／石炭／金鉱を発掘する)
× 招
× 摘

- (59) { 採真珠／標本／様。(真珠／標本／サンプルを採集する)
× 招
× 摘

- (60) 由於瑪瑙石有了精加工保障、採集瑪瑙成為当地千家万戶致富的門路。每年可
採瑪瑙石一百二十至一百五十噸。(めのうを宝石に加工してくれるとい
× 招
× 摘

う政府の保障があったため、それを採集することはすでに地元の人が裕福になる手段となり、毎年、めのう原石が百二十ないし百五十トン採掘される) (張聲銓「瑪瑙之鄉見聞」《人民日報海外版》1987.12.2)

ここの“採”は「ある目的に沿って物を捜し求め、複数のものの中からある特定の物を選び出す」意味に用いられている。このような場合、“摘”、“招”と置き換えられない。さらに、次のような熟語的な用法にある“採”も“招”、“摘”と置き換えができない。

- (61) { 採用新職員(新入社員を採用する)
× 招
× 摘

- (62) { 採取措施(措置をとる)
× 招
× 摘

- (63) { 採訪聽衆(聽衆から取材する)
× 招
× 摘

- (64) { 採納意見(他人の意見を受け入れる)
× 招
× 摘

大勢の応募者から合格者を取ること、いろいろな方法からある措置をとること、大勢の聽衆から何人か特定な人に取材すること、あるいはたくさんある意見から合理だと思われるものを受け入れることなどの場合、いずれも「複数のものの中からある特

定なものを選び取る」意味に用いられる例であり、このような場合は“採”しか用いることができない。

4. まとめ

以上の分析から、“掐、摘、採”三つの動詞の意味特徴を次のようにまとめられる。

“掐”〈二本の指で細いものを断ち切るように力を加える〉

“摘”〈指で本体に固定されている対象を取り外す〉

“採”〈複数のものの中から特定の物を選び取る〉

注：1) “ ” 記号内は中国語動詞であることを示す。

／参考文献／

- 愛知大学編1987『中日大辞典 増訂第二版』大修館書店
王硯農他1984『漢語常用動詞搭配詞典』外語教学与研究出版社
倉石武四郎他1983『岩波日中辞典』岩波書店
新華辞典編纂組編1980『新華辞典』商務印書館
孟淙他編1987『動詞用法詞典』上海辞書出版社
森田良行1977『基礎日本語』角川書店
国広哲弥1970『意味の諸相』三省堂
国広哲弥1966『日英温度形容詞の意義素の構造と体系』（『国語学六〇』）
国広哲弥1967『構造的意味論—日英両語対照研究』三省堂

言語経歴 0～30中国廣州

0～30中国廣州

30～現在東京

（Liu Li・東京都大学大学院学生）